

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 3 年 12 月 19 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3471502447		
法人名	佐々木産業有限会社		
事業所名	グループホーム あげぼのあゆみホーム		
所在地	広島県福山市曙町五丁目五番25号 (電話) (084) 954-5704		
自己評価作成日	令和3年12月2日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3471502447-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和3年12月16日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

入居者のこれまでの生活の延長上に今の生活があるという認識の下、一人ひとりの価値観が違うことを意識しその人らしさを大切に日々の実践に努めています。入浴日以外の入居者全員に毎日清拭を行い、気持ちよく過ごせるようにしており、併せて全身観察が行え体調管理にもなっている。また、災害対策として施設裏に避難所を作り、年に2回訓練を行い避難経路・緊急連絡体制、発電機や備蓄の整備を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

最近の特徴的な取組みとして第一に「馴染みの人や場との関係継続の支援」に深化がある。事業所は「気軽に訪問できる事業所作り」を重視するが、コロナ禍による面会制限がある中、今年から窓越し面会で再開となり、最近では玄関ホールでの5メートル離れて面会する等、平均週1回の短時間面会が現状ながら利用者・家族の気持ちに寄り添った支援をしている。第二に「災害対策」の深化がある。事業所はハザードマップの浸水地域に該当しており、地域住民数名の参加のもと、毎年地震・津波避難訓練を実施している。南海トラフ大地震等による災害対策として事業所裏に4mの高台（鉄筋の避難所）を建設し、運営推進会議でも行政や地域住民と情報・意見交換をしながら具体的な実践課題の解決に取り組んでいる。第三に「入浴を楽しむことができる支援」に深化がある。事業所は入浴日以外の利用者全員に毎日清拭を行い、快適さと体調管理に努めている。

自己評価	外部評価	項目(さくら)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている。	毎日の申し送り時にスタッフと一緒に理念を読み上げ認識の確認を行っている。全体会議・ユニット会議で理念を共有して実践に繋げるようにしている。	6年前に全職員の協議で改定した基本理念を実践上の立ち返るべき原点として意識すべく、事業所内に掲示し、毎日の申し送りで唱和している。職員も理念に沿った年間目標を設定し、管理者との半期毎の個人面談で達成度を検証している。又、理念の評価・検証の枠組みを検討中である。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナ禍の影響で地域と繋がりがながらの暮らしが出来ていない状態である。	現在はコロナ禍により花見ドライブ以外は自粛中だが、本来は日頃から散歩や地域行事等への参加、又、避難訓練への住民参加、ブルガリアからバラの女王の訪問等、相互交流もあった。法人代表者が町内会長であり、今年の町内清掃への参加や利用者作品を地域の文化祭に出展している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	入居者と作品作りを行い、地域の文化祭に参加している。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	コロナ禍で只今行えていない状態である。	最近の会議はコロナ禍のため書面による事前照会となり、参加予定の家族代表・民生委員・町内会副会長・地域包括支援センター・市担当課職員等に情報共有のため感染対策・面会状況等の現状報告書を持参している。口頭による意見聴取では会議の再開見通しへの質問が殆どであった。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	災害対策について・運営推進会議等担当者に相談をしている。	地域包括支援センター・市担当課とは運営推進会議や事前照会（配布の会議資料）で運営情報を共有し、会議の開催報告書は市担当課に郵送している。市担当者とは日頃から相談・報告や行政主催の委託研修会へ参加したり、又、生活保護に関しても生活課職員の定期的な訪問もある。	

自己評価	外部評価	項目(さくら)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>3ヶ月に1回の身体拘束禁止委員会を行い、振り返りを行っている。玄関の施錠は20時から翌日の6時半までは行っている状態である。</p>	<p>三か月毎の拘束禁止委員会兼研修会等を通して職員は「拘束はしない」必要性を認識し、ケア終了時ベッドを下げ足元に布団等を設置したり、床センサー・マットを活用する事もある。日中は玄関を施錠せず玄関の開閉を感じするチャイムでの見守りや外部モニターカメラも設置している。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>3ヶ月に1回の委員会を行い、振り返りを行っている。また、研修会に職員が順次参加しホーム全体で共有している。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>現在ははないが、必要な入居者が必要に応じて活用できるように支援して行きたい。制度について学ぶ機会は今後の検討課題である。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約、解約および契約改定時は入居者やご家族に説明するだけでなく、意見や疑問を聞き納得してもらえるように努めている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>コロナ禍ではあるが、利用料は出来るだけご家族の方にホームまで支払いに来て頂き意見や要望を聞く機会にしている。生活の中で入居者が発した言葉を大切にケアに活かせるように心がけている。</p>	<p>利用者の要望は日々の会話を通じて把握し、家族とは電話連絡、面会時、運営推進会議、意見箱等で管理者や職員が積極的に聴くよう努めており、介護記録の特記事項に記載して職員は共有している。午後の清拭後、パジャマ姿であった利用者の服装に対し、家族の要望に応じた例がある。</p>	

自己評価	外部評価	項目(さくら)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月に1回の全体会議で、職員の意見や要望を聞く機会を設けている。	毎月の全体会議・ユニット会議、毎日の申し送り、随時又は定期的な個別面談を通し管理者は職員の意見を聞く機会を設け、介護方法・業務上の提案等に対する支援体制を採っている。職員提案で両下肢に浮腫のある利用者に和室畳コーナーで足を伸ばしてもらい浮腫が軽減した例もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	シフトを組む際、現場の職員、主任、管理者、代表者の意見や希望を取り入れるようにしている。代表者は月初めに前月の職員の勤務状況を確認している。定期的に代表者・管理者・本人の3者による評価を行い、給与に反映させている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	年に1回は研修に参加できる機会を与えている。働きながら、通信教育を受けられるようにしている。(資格取得支援がある)定期的にレポートを提出してもらいその時のケアに対する考えや力量を把握するように努めている。管理者と話し合いスタッフの様子を聞いて把握するように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	今後の検討課題である。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	事前面接を行い困りごとや不安なこと、要望などを把握する。入居後はホームでの生活に馴染めるようにコミュニケーションを深めている。初期に現れやすい帰宅願望に対しては親身に傾聴する。会話や暮らしぶりなどを記録に詳細につけ、課題やニーズを明らかにして、親身なケアの実践により信頼関係の構築に努めている。		

自己評価	外部評価	項目(さくら)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>入居者前にご家族よりご意見・ご希望を頂き、不安要素を取り除けるように対応している。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>入居申し込み時にご本人の状態に合わせたサービスの選択が出来るように、他サービスについても説明を行っている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>日常生活の中でできることは手伝って頂き「ありがとう」で感謝の気持ちを伝えている。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>通院等ご家族の出来る範囲でご協力をお願いしている。ホームでの出来事はご家族に報告し情報を共有することで困りごとを相談しながら解決するようにしている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>コロナの影響で外出や面会が制限されているが、ご家族の希望があればガラス越しの面会や、5メートル以上の距離をおき顔を見て頂いたりしている。</p>	<p>コロナ禍による面会制限の中、今年から窓越し面会として再開となり、最近では玄関ホールでの5メートル離れて面会を行う等、平均週1回の短時間面会が現状ながら利用者・家族の気持ちに寄り添った支援をしている。お花見ドライブ・年賀状・携帯電話を介した会話等、馴染みの関係継続に努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目(さくら)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士が寛ぎ、ゆったりとできる共有スペースを設けている。気の合う方同士を隣の席にする等工夫して、孤立気味の方にはスタッフが話しかけるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	長期入院となり契約が終了しても、お見舞いする等して関係を維持するように努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の生活の中での発言等から、本人の本音やシグナルを見落とさないように努めている。	職員は利用者の気持ちを大事にしつつ、その方の行動を理解する様努め、例えば干し柿作り等、利用者の興味に意識を向けている。又、懐メロを流し意思疎通困難な利用者が打つリズムから好きな曲を探る等、波長合わせを行い、その情報は業務日誌等に残し職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご家族より生活歴を聞き取り、本人からは日々の生活の中で若いころの話等聞き出すように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	介護記録により一日の生活状況・食事・水分量・排泄・バイタル・本人の発言や心理状態が把握し共有出来るようにしている。重要事項は朝の申し送り時にスタッフ全員が情報の共有している。		

自己評価	外部評価	項目(さくら)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>常にスタッフは情報を共有し、三カ月に一度カンファレンスを行っている。医師は往診時にご家族は来所時に意見を頂いてプランに反映させている。</p>	<p>看取りや急変時には担当者会議に家族が参加し、モニタリングは毎月のユニット会議で全職員が行い計画作成担当者にて集約し、計画の見直しは三ヶ月毎に行っている。排泄間隔を伸ばす支援や財産管理を自分でやりたい利用者のために生年月日・電話番号等、数字を書く日課の立案例がある。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>介護記録を取り、定期的に記録を振りかえりサービスを点検しながら改善に努めている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>ご本人の生活状況、体調や要望、また家族の要望にはその都度職員同士や、会議などで話し合い柔軟に対応するように努めている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>地域の文化祭に作品を展示する等、今できることに参加するように努めている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>入居時にご家族の希望を踏まえてかかりつけ医を決めている。ホームの連携医は二週間に1回往診がある。主治医をそのままの方は、受診時に手紙、電話での相談などをし、安心して医療が受けられる対応をとっている。</p>	<p>利用開始前の主治医の受診継続も可能だが、殆どの利用者は協力医を主治医とし、協力医からユニット毎に隔週往診がある。歯科・皮膚科からも適宜往診があり、その他の専門医の受診は主に家族の協力で行っている。看護師との連携にて適切な医療を受けられる体制を整えている。</p>	

自己評価	外部評価	項目(さくら)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>かかりつけ医と連携し1週に1度情報交換や状態の確認を行っている。入居者の健康状態を共有でき、適切な医療を受けることが出来ている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時には、情報提供を行い、入院中はご家族の相談に応じている。退院時は、病院からの生活上の注意点の情報ももらっている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>重度化した場合や終末期については、ご家族に十分に説明をして同意を得ている。状態の変化があれば、ご家族と相談をしながら出来るだけ当ホームで支援していけるように医療関係者と連携してチームで取り組んでいる。</p>	<p>要望があれば看取りを行う方針である。利用開始時に「重度化した場合の対応にかかる指針」にて基本的な方針を説明し了承を得ている。この度4週間の看取りを経験し職員意識も変容する中、現在途中のケースもある。全体会議での研修や外部研修により看取り力の強化に努めている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>入居者の急変や事故発生に対応するため、ユニット会議・全体会議等で話し合い、全スタッフが対応出来るようにしている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>年に2回の災害訓練を実施し、スタッフ、入居者、地域の方達と共に行っている。災害対策としての避難所があるので、訓練を通して有効な活用を行っている。</p>	<p>年2回の避難訓練を夜間想定、利用者も参加して実施し、内1回は地域住民3名の参加を得て地震・津波避難訓練を実施した。南海トラフ大地震等による災害対策として事業所裏に4mの避難所を建設し、運営推進会議で行政・地域住民と連携したり、地域の防災訓練にも参加している。</p>	

自己評価	外部評価	項目(さくら)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	スタッフは研修にも参加して、入居者一人ひとりの感じ方が違うことを意識して価値観を押し付けないように介護している。ユニット会議等で話し合う機会を設けてケアの意識統一を図るようになっている。	研修で職員の幅広い知識の習得と資質向上を図る体制もある。尊厳に配慮してケアに関わり、行為に対する利用者との認識の違いに職員の価値観を押し付けない様に意識化している。不適切な対応には指導を行い気づく事の重要性や必要事項は介護記録の特記事項に記載して共有している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	生活の中で、入居者の方々とコミュニケーションを図りながら、希望や思いを聞き出し寄り添えるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	その日の状態に合わせて、寝坊がしたい方や食事が食べたくない方・入浴が億劫な方・夜寝たくない方等、希望に沿って支援を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	入居者に合った身だしなみ・おしゃれが出来るように支援している。衣服は着心地が良く、色柄・その方に合うものを選んで購入する支援を行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	手作りデイの日は入居者の希望するメニューを提供したり、ホームの畑で収穫した野菜を調理して季節を味わうように支援している。	朝食・土曜の3食は手作り、昼・夕の副食は食材が届き可能な利用者が準備・調理等を手伝っている。土曜の手作りデイの献立で利用者の好みを反映している。菜園の野菜を活かした切り干し大根・シソジュース等も作っている。車いすから椅子に移り姿勢を整えて食事をしている。	

自己評価	外部評価	項目(さくら)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	必要な栄養を摂取出来るよう、刻み食、ミキサー食で提供している。水分量は1日1000mlを目安に摂取出来るように支援している。摂取が難しい方は、飲み物を工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	かかりつけ歯科に口腔指導を毎月受け、入居者一人ひとりに合った実践をしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄チャートと用いて、排泄パターン・習慣に合わせてトイレ誘導を行い、失敗のないように、また、残存能力に合わせて工夫をするように努めている。	排泄チャートで排泄パターンを把握したトイレ誘導を基本としている。可動式手すりの設置やその方に適したパンツ・パッド導入等、状態像に合わせた排泄の自立支援を行っている。夜間排泄時の転倒防止の為、床センサー・マット等を設置し拘束廃止に向けて取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排泄チャートを用いて、水分量・食事を記録し一人ひとりに合った対応を決めている。体操・ホーム内を歩いたりし体を動かすようにしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	希望の回数・時間帯・好みの湯加減で一人ひとりが入浴を楽しみに出来るように支援している。	週2～3回の午後入浴が基本だが、入浴日以外の利用者全員に毎日清拭を行い、体調管理に努めている。利用者の状態像により、半埋め込み式浴槽に複数介助で対応したり、足浴と座って浴びれるミストシャワーの併用をすることもある。冬至の柚子湯や入浴剤で寛ぐこともある。	

自己評価	外部評価	項目(さくら)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>	<p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に合わせて臨機応変に対応している。寝具照明・音・オムツやパッド等一人ひとりに配慮している。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>入居者が飲んでる薬については、全スタッフが理解している。また、服薬時は服薬者の名前、いつの薬なのか、口頭で言い、服薬間違いのないように、服薬の確認を行っている。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	<p>役割を持つことが、よろこびになるように支援している。一人ひとりの生活歴・持っている力を活かせるように、入居者の楽しみを見つける支援も行っている。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>コロナ禍の影響で外出することが出来ていない。</p>	<p>現在はコロナ禍によりウッドデッキでの喫茶、菜園での農作業、花見ドライブ以外は自粛中だが、本来は日頃から散歩や学区文化祭等地域行事への参加、季節行事として秋のバラ公園等の他、家族と外食等に出掛けたり、普段は行けないような所へ外出し「非日常」を楽しむこともあった。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>入居者が所持して使えるようにしているが、コロナ禍のため今は外出が難しいので、必要な物やほしいものはスタッフが代行している。</p>		

自己評価	外部評価	項目(さくら)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>なかなか入居者が自ら希望されることは少なく、年賀状を書いたり、電話がいつでも出来るように支援している。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>リビングには天窓から日光が差し込み食卓を明るく照らしている。ウッドデッキがあり、風を感じたり、日光浴ができたりする。外には畑があり、季節ごとの野菜が収穫でき、料理して味わっている。</p>	<p>菜園の花・野菜や正月・クリスマス等、季節行事の飾り付けや利用者で作った書道等の「壁掛け作品」や行事の写真飾っている。天井吹抜けの天窓から明るい光が差し込むが、直射日光を避けるため遮光カーテンが設置されている。又、足を伸ばして寛げる和室畳コーナーもある。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>日頃の生活から気の合う入居者同士と一緒に過ごせるようにしたり、畳で過ごしたりソファで過ごせたり、思い思いに過ごせるように工夫をしている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>家族の写真を置いたり、使い慣れた鏡・化粧品・テレビやラジオを居室に置き、居心地のよく過ごせるように、ご家族とも相談をしながら一人ひとり工夫をしている。</p>	<p>居室にはベッド・エアコン・タンス等が備え付けられ、テレビ等、使い慣れた物や大正琴等、好みの物を持ち込み居心地よく過ごせる様にしている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>ホーム内はシンプルにして、トイレの場所などが分かりやすく表示している。日付を大きく表示したり、日課を書いて、いつでもわかるように工夫をしている。</p>		

V アウトカム項目(さくら) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/> ①ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> ②数日に1回程度 <input type="checkbox"/> ③たまに <input type="checkbox"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/> ①大いに増えている <input type="checkbox"/> ②少しずつ増えている <input type="checkbox"/> ③あまり増えていない <input type="checkbox"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="checkbox"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="checkbox"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="checkbox"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="checkbox"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="checkbox"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="checkbox"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="checkbox"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="checkbox"/> ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目(ひまわり)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている。	毎日の申し送り時にスタッフと一緒に理念を読み上げ認識の確認を行っている。全体会議・ユニット会議で理念を共有して実践に繋げるようにしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナ禍の影響で地域と繋がりがながらの暮らしが出来ていない状態である。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	入居者と作品作りを行い、地域の文化祭に参加している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	コロナ禍で只今行えていない状態である。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	災害対策について・運営推進会議等担当者に相談をしている。		

自己評価	外部評価	項目(ひまわり)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>3ヶ月に1回の委員会を行い、振り返りを行っている。玄関の施錠は20時から翌日の6時半までは行っている状態である。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>3ヶ月に1回の委員会を行い、振り返りを行っている。また、研修会に職員が順次参加している。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>必要な入居者が 現在はいないが、必要に応じて活用できるように支援して行きたい。制度について学ぶ機会は今後の検討課題である。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約の、解約・改定時は入居者やご家族に説明だけでなく、意見や疑問を聞き納得してもらえるように努めている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>コロナ禍ではあるが、利用料は出来るだけご家族の方にホームまで支払いに来て頂き意見や要望を聞く機会にしている。生活の中で入居者が発した言葉を大切にケアに活かせるように心がけている。</p>		

自己評価	外部評価	項目(ひまわり)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月に1回の全体会議で、職員の意見や要望を聞く機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	介護度の軽減・努力に対する支援策がある。定期的に評価基準を設け、給料支援を行っている。(入社6年目より3年毎)		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	年に1回は研修に参加できる機会を与えている。働きながら、通信教育を受けられるようにしている。(資格取得支援がある)定期的にレポートを提出してもらいその時のケアに対する考えや力量を把握するように努めている。管理者と話し合いスタッフの様子を聞いて把握するように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	管理者やスタッフが、他の施設のスタッフと交流を持つ機会を作るためにも研修に参加の声掛けを行っているが、コロナかで難しい面もある。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	事前面接を行い困りごとや不安なこと、要望などを把握する。入居後はホームでの生活に馴染めるようにコミュニケーションを深めている。初期に現れやすい帰宅願望に対しては親身に傾聴する。会話や暮らしぶりなどを記録に詳細につけ、課題やニーズを明らかにして、親身なケアの実践により信頼関係の構築に努めている。		

自己評価	外部評価	項目(ひまわり)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居時にご家族の希望のうえかかりつけ医を決めている。ホームの連携医とは、往診などで毎週相談する機会がある。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ホーム見学時や申し込み時には、他事業所のサービス等の説明も加え、ご家族が選択出来るよう支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	暮らしていく中で、コミュニケーションを取りながら自分で出来る事はして頂き、出来ない所は介助してスムーズな生活が出来るように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族として支援出来る所の提案と本人の希望を聞きながら両者間のパイプ役としての立場で支援に努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	コロナの影響で外出や面会が制限されている。ご家族の希望があればガラス越しに面会して頂いたり5メートル以上の距離をとって顔を見て頂いたりを選んで頂いている。		

自己評価	外部評価	項目(ひまわり)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者同士がホールに集い、一緒に歌ったり、会話ができる環境を作るように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	長期入院となり契約が終了しても、お見舞いする等して関係を維持するように努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日頃何気ない会話や表情から気持ちをくみ取り、表情が曇っている時は何が嫌なのか思いを推し量ったり、本人に希望を聞いたりする。コロナ禍で家族との面会が制限され家に帰りたいたいという思いに十分に感じられていない現状がある。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご家族や本人との会話の中からエピソードを聞きとったり、一人ひとりに合わせたサービスを柔軟に対応している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	介護記録により一日の生活状況・食事・水分量・排泄・バイタル・本人の発言や心理状態が把握出来るようにしている。重要事項は朝の申し送り時にスタッフ全員が情報の共有している。		

自己評価	外部評価	項目(ひまわり)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>介護記録に生活状況を丁寧に記録し、毎月ユニット会議で記録に基づき個別にサービス内容を検討、改善する。三か月ごとのケアプラン更新時には、ご家族の意見を傾聴する。往診時など1週間ごとに医師、看護師の意見を聞くようにしている。</p>		
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>介護記録を取り、定期的に記録を振りかえりサービスを点検しながら改善に努めている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>基本的には、当ホーム以外のサービスは利用していないが、家族の要望には柔軟に対応するように努めている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>コロナ禍になり地域との連携が困難になっている現状があるが、家族や往診の先生との会話などが数少ないながらも楽しみとなっている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>入居時にご家族の希望を踏まえてかかりつけ医を決めている。ホームの連携医は2週間に1回往診等がある。主治医をそのままの方は、受診時に手紙、電話での相談などをし、安心して医療が受けられる対応をとっている。</p>		

自己評価	外部評価	項目(ひまわり)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	当ホームの看護師・かかりつけ病院の看護師と連携を図り、入居者の観察・状態の把握に努めている。必要に応じて医療行為も行っている。24時間電話で相談出来る体制を整えている。経過等のご家族とも連絡し相談をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはスタッフ・ご家族が付き添い情報提供・情報を共有している。入院中はご家族の不安等の相談に応じたり近況報告を伺っている。病院関係者とは、電話で情報交換や相談をし連携をとるようにしている。退院時は、生活上の注意点の情報をもらっている。退院時のカンファレンス開催の検討もしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時に本人・ご家族に十分説明をし、方針の決定・同意を得ているが、状態の変化がある時には、ご家族と相談しいながら出来るだけ住み慣れたホームで支援していけるように医療関係者と連携を図っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	入居者の急変や事故発生に対応するため、スタッフ間で情報を共有し、全スタッフが行動出来るようにしている。困ったときの相談できる体制が整っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年に2回の災害訓練を実施し、スタッフ・入居者共に参加して行っている。例年だと地域の方にも参加してもらおうが、コロナ禍のためホームの関係者だけで行った。避難所があるので、訓練を通して避難経路の確認も行っている。		

自己評価	外部評価	項目(ひまわり)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	入居者一人ひとりの価値観・人格を尊重しながら、プライバシーや自尊心を損なわない優しい声掛け、思いやりのある対応で意欲的な生活を送ってもらえるように支援している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	生活の中で、入居者の方々とコミュニケーションを図りながら希望や思いを聞き出し寄り添えるように努めている。例えば食事のリクエストを聞いて作ったり、聞きたいといわれる音楽を一緒に聞いたり、入浴では「入りたくない」といわれるときには中止し、背景因子も分析しながら入居者が自己決定できる環境を整えるように心がけている。。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	入居者のひとり一人で生活リズムやその日の体調が異なるので、ホームのスケジュールにとらわれず、本人の希望に出来るだけ添えるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	身だしなみを整える時には鏡を見てから化粧水でお肌の手入れを毎朝行っている。また、顔ぞりを定期的に行っている。髪留めなども使用しその方に合ったおしゃれが出来るように支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	手作りデイには、食べたいものをリクエストしてもらい希望に添い（食事だけでなくおやつも）、また育てた野菜を収穫しスタッフと吊るし柿を作ったり、切り干し大根をつくったり、シソ・梅ジュース等楽しみになるように支援している。外食支援も行っていたが、コロナ禍のため今は中止中である。		

自己評価	外部評価	項目(ひまわり)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	必要な栄養を摂取出来るよう、刻み食、ミキサー食・おにぎり・ふりかけをかけるなどの工夫で提供している。食事量が足りない方は、好みの栄養補助食品を提供している。水分量は1日1000mlを目安に摂取出来るように支援している。摂取が難しい方は、飲み物を工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	かかりつけ歯科医に口腔指導を毎月受け入居者一人ひとりに合った方法で1日3回の口腔ケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	一人ひとりの能力や状態に応じて、布パンツ・紙パンツを使用している。また、入居者の排泄パターンや習慣に合わせて適切にトイレに行く支援をしたり、パッドを併用したりして出来るだけ失敗のないよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。	排泄チャート・食事量・水分量を記録し、下剤の服用等は一人ひとりに合わせた対応を決めている。また、食物繊維の多い食事やヨーグルトなどを摂取するように工夫をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。	一人ひとりの希望や状態に合わせて入浴日数や時間帯を決めているが，その日の気分や体調により清拭に変更したり，日にちを変更したりと臨機応変に対応するようにしている。		

自己評価	外部評価	項目(ひまわり)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	一人ひとりの状態に合わせて、 臥床する時間や服薬時間等を変 更している。また、夜間は入居 者の状態に合わせて、オムツを 使用したり、パッドの種類を変 更しパッド交換や体位変換も一 人ひとりの状態に合わせてタイ ミングを工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。	ひとり一人の体調変化に気を付 け、気になる場合は、往診の時 に主治医に報告し、指示を仰ぐ ようにしている。服薬の変更が あった場合は、申し送りでも ユニット内スタッフに周知を行っ ている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。	一人ひとりの状態に応じて、調 理・洗濯干し・たたみ・菜園の 仕事ができるように支援してい る。また、好みのテレビ番組 を見たり、就寝前に養命酒を 飲んだり出来るように支援して いる。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地 域の人々と協力しながら出か けられるように支援している。	ひとり一人の状態に合わせて、 ホームの周辺を散歩したり、 コンビニに買い物にいたり、ご 家族と外食に行く等の支援を行 っていたが、現在はコロナ禍の 為行えていない。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、お 金を所持したり使えるように支 援している。	ご家族よりお金を預かっている 方は、入居者と相談をしながら 好みのものをスタッフが代行し て購入している。コロナ禍で外 出することが難しく本人がお金 を使うことは出来ていない。		

自己評価	外部評価	項目(ひまわり)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人が書かれた塗り絵等をご家族や大切な方に送ったり、年賀状を送ったり、親族からの絵はがきを居室に飾ったり、希望でテレビ電話をする支援をしている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	トイレ・浴室をわかりやすく表示、日付けや曜日・一日の食事・おやつ(時間、季節を感じる壁飾り等を工夫している。天窓から陽ざしを取込み、ウッドデッキで日光浴・季節の収穫体験で心地よく過ごせるよう工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	日頃の生活から気の合う入居者同士と一緒に過ごせるようにしたり、昼で過ごしたりソファで過ごせたり、思い思いに過ごせるように工夫をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	馴染みの物をできるだけ持参をお願いし、ご家族の写真、仏壇、誕生日プレゼント、大正琴、好きな歌の歌詞・写真を置いてベッドから見えるようにし居心地よく過ごしてもらえるように工夫をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	場所の表記をわかりやすくしたり、危険が無いよう、また生活がしやすいような配置を工夫している。日付けを大きく掲示したり、季節を感じられるように花や絵を飾っている。		

V アウトカム項目(ひまわり) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームあけぼのあゆみホーム

作成日

令和4年2月10日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1		ホーム全体の目標と個人の目標がずれがある。	個人の目標がホーム全体の目標を同じ方向を向く。	1. ホームの目標をスタッフに周知する。 2. それをもとに個人目標を立てる。	1年
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。